

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 4月 20日

| | | | | | |
|--|---------------------|-------------------|---------------------------------------|------|------|
| 所属 | 商経学部 | 職名 | 専任講師 | 氏名 | 土屋清人 |
| 研究課題 | 法定耐用年数に依存する制度会計の問題点 | | | | |
| 研究キーワード | 減価償却、法定耐用年数 | 当年度計画に対する達成度 | 3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した | | |
| 関連するSDGs項目 | 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう | 11. 住み続けられるまちづくりを | 12. つくる責任 つかう責任 | 該当なし | |
| <p>1. 研究成果の概要</p> <p>「産業経理 Vol.80 No.4 2021」の論文 2 編目に「持続可能な建物を阻害する減価償却の限界と資本的支出の問題点」というタイトルで掲載できたことは、研究の方向性に間違いがなかったものと判断する。しかし、掲げた研究課題には及ばなかったことは反省するものである。今後も、建物における減価償却の問題点を追究していく所存である。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>「持続可能な建物を阻害する減価償却の限界と資本的支出の問題点」土屋清人、単著、産業経理 Vol.80 No.4、14-32、2021</p> <p>【学会発表等】</p> <p>3. 主な経費</p> <p>企業の実態を分析するための書籍を購入した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> | | | | | |

(本文は2ページ以内にまとめること)